

## 第5回 第5期武蔵野市緑化・環境市民委員会記録

●日時；平成28年5月26日（木）19：00～21：00

●場所：武蔵野市役所413会議室

●出席者（敬称略）：

<委員長> 小田 宏信

<副委員長> 大森 克徳

<委員> 榎本 一宏、梅田 彰、鈴木 圭子、櫻井 勝實、  
町田 光司郎、小松 由美、石井 かおる、三浦 香澄

<事務局> 武蔵野市環境部緑のまち推進課、国際航業（株）

●次第

1. 開会
2. 議事（1）第4回委員会振り返り  
（2）民有地の緑の保全と創出
  - ① 民有地の緑の創出
  - ② 民有地の緑の保全
3. その他（1）日程等について
4. 閉会

●発言要旨

1. 第4回議事要録について

- ①第4回の議事要録は了承した。

2. 第4回委員会振り返りについて

- ①東京外郭環状道路の整備計画における地上部の扱いは未定であるが、生物多様性や防災性に配慮した緑地として整備することで、緑の回廊や緑と水のネットワークが形成できる。
- ②緑と水のネットワークでは景観や歴史・文化の観点も重要である。歴史的背景の痕跡が残っているものも少なくなってしまうが、形として残したり、掲示等で示すことでネットワークを示していくとよいのではないか。郷土資料館との連携や観光推進計画との整合性も必要である。また、昔のまち並みを保存、再現するのであれば、コンセプトを定めることで効率的な景観の保存ができる。
- ③森を守り育てる連携として材の利用形態は、薪ストーブによる間伐材利用、オフィスの壁や床に多摩産材を活用した事例があり、産学民が連携し、市内で循環できる仕組みを考えることも重要である。
- ④奥多摩の存在意義を知ってもらうには、奥多摩の自然の良さや自然体験の楽しさを経験してもらうことが大切である。市民に伝える手法として、楽しさを伝えながら同時に市内の森も楽しい気持ちのよい場所だということを知ってもらうことも必要である。

⑤緑ボランティア活動ではお互いに協力できるようボランティアの横のつながりをつくっていくと人の融通ができ、身近な公園でのイベントがしやすくなり、みどりを考える市民が増えるのではないか。

### 3. 民有地の緑の創出について

- ①助成と合わせたアドバイザー派遣といったソフト的な支援があれば、みどりを育てるという市民意識を引き出すことにつながる。
- ②緑被率だけではなく緑視率にも重点をおいて、接道部の緑化を誘導するような制度を考えられないか。提供公園や公開空地での効果的な開発誘導行為があってもよいのではないか。接道部緑化を進めることでまちの風格が高まる。
- ③商店街の緑化はまちの価値を高める上で、重要と考えている。商店街のプランターは維持管理が難しく、官民協働で行えないか。
- ④市内には素敵な庭が多くあり、オープンガーデン事業を行っている。市が主体となるイベントを運営することは難しいため、市民団体に対しサポートすることで柔軟に対応できるようになるのではないか。また、自宅の庭を市民に見てもらうことが庭造りのやりがいにつながるのではないか。
- ⑤市民の緑化を支援するアドバイザーグループで市を補完し、連携することができるのではないか。

### 4. 民有地の緑の保全について

- ①せん定枝や落ち葉を土に戻す循環について仕組みがあると若い人にも興味を持ってもらえる。わずかな活動でも周りの市民にわかってもらえるきっかけになる。
- ②自宅の管理が難しい場合には他部署と連携できる仕組みが必要ではないか。例えば高齢者の福祉との連携により高齢者をサポートできる仕組みがあるとよい。
- ③緑の保全に対してもアドバイザー派遣を通じて、市の姿勢が伝わるのではないか。緑があることで暮らしが豊かになるとともに、景観も向上し、まちそのものの価値が高まることを市民にわかってもらえることが重要ではないか。
- ④街中の清掃ボランティアは多いが、同じ場所を繰り返し掃除している場合がある。落ち葉掃きを必要としているところにボランティアを配置できるシステムがあるとよい。
- ⑤緑の保全は創出と違い、対策を急ぐ必要がある。民有地の緑は所有者の管理であり、高額な管理費をかけてまで緑を残す価値がないと考える人もいる。しかし個人にとって価値が低くても地域にとって財産価値は高い。個人ではなく、地域で保全を行えるよう地域に対して助成をする制度が必要ではないか。緑の保全を地域の問題として捉え、地域で解決するようになるのではないか。
- ⑥自分のために緑を植えることからスタートして他の人にも波及していくことで緑が連鎖的に広がっていくような制度が効果的ではないか。
- ⑦これからはグーグルマップで検索する時代になり、屋上が目印になることを考えると、屋上をうまく使うことが大事になる。市の緑化面積の算定では、屋上緑化は緑化面積の75%しか

算入されない。整備費用も高額であるため、全体面積が算入されてもいいのではないか。また接道部緑化と同様に助成金も出してもよいのではないか。

## 5. その他について

- ①今年の委員会開催日について、第6回と第7回の各委員の予定を調整したい。